



剣ヶ峰（富士山測候所）を背景に

年次晩餐会

昨年の12月6日、私は3年ぶり

富士山に登つて

田舎者に先づ一得をなれた
秩父宮記念山岳賞を受賞された
方々による講演会での巨大雪庇の
メカニズムについての研究や冬季
ローツェ南壁完登のお話はとても
興味深く、その後、晩餐会のテー
ブルで受賞された方々からさらに
お話を伺えたことは幸いであつた
また、新たに名誉会員になられた

に日本山岳会の年次晩餐会に出席することができた。いつもと変わらない、なごやかで温かい雰囲気で包まれた晩餐会であつた。初めて鏡割りも体験した。

德仁親王

中村純二、中村保両氏からもそれぞれ、登山や英文ジャーナル編集に関する貴重なお話を伺えた。

富士山眺めて

経ち、その意味で今回は晴れて富士山のテーブルに着くことが出来た。私の入会の推薦人のお一人になつて下さった宮下秀樹氏が、会長として隣の席に座られたことも私の感慨をより大きなものにしたのも事実である。

中村純二、中村保両氏からもそれぞれ、登山や英文ジャーナル編集に関する貴重なお話を伺えた。

私にとつて、今までの晩餐会との一番の違いは、富士山に初登頂した年の晩餐会であつたということであろう。日本山岳会に入会させていただいた当初から、私は「富士山」のテーブルにつかせていただいていたが、登頂していない身としてはいつも多少の引け目を感じ

そこには、学校で遊んでいるときに先生から「富士山が見えますよ」と呼ばれ、友達と一緒に先生に連れられて屋上にあがり、国立競技場の照明塔付近に雲のように白く浮かぶ富士山を眺めたときの心弾む思いが綴られている。そして、「ぼく、あんまりうれしかったので

富士山を眺めて

そこで、この機会に私と富士山について少しばかり書いてみたいと思う。私が最初に富士山を眺めたのがいつだつたか、はつきりとは覚えていない。葉山の御用邸附属邸に行つたおりだつたかもしれないし、2歳の時に訪れた沼津御用邸からであつたかもしぬれない。

今、手元に、私が学習院初等科1年生の時の文章が掲載された



2009年(平成21年)
1月号(No.764)
社団
法人 日本山岳会
The Japanese Alpine Club
定価1部 150円
URL●<http://www.jac.or.jp>
e-mail●jac-room@jac.or.jp

目 次

富士山に登って	1
山の文化を伝え育てる	
「山の日」プロジェクトにパワー結集を	4
2つのヒマラヤ難壁の初登攀	6
山岳遭難後方支援の病院に	
医師不足の波	8
追悼 坂倉登喜子さん	9
東西南北	10
白山 越前馬場と東尋坊	
活動報告	11
資料映像委員会／集会委員会／	
アルパインフォトビデオクラブ	
秩父宮記念スポーツ博物館	13
図書交換会出品目録	
および購入申込みのご案内	14
図書紹介	16
図書受入報告	16
会務報告	17
ルーム日誌	18
会員異動	18
新入会員	18
INFORMATION	19

▶ 日本山岳会事務(含図書室)取扱時間
 月・火・木 10~20時
 水・金 13~20時
 第2、第4土曜日 閉室
 第1、第3、第5土曜日 10~18時



万年雪が残る火口、お鉢めぐりにて

のシルエットも忘れられないし、初めて山でテント泊を経験した荒川小屋付近のテント場から、多少眠たい目をこすりながら眺めた姿も目に焼きついている。

初めての富士登山

初めて富士登山を計画したのは、28歳の時であった。ボーカスカウトのベンチャードという企画の一つとしての富士登山に同行し、高校生のボーケスカウト達とともに須走口を出発した。登り始めは予想した以上の樹林帯で、直射日光はまぬがれたが、そこをぬけると、

歩きづらい砂地や砂礫地の登りがあろう。また、同じ頃、両親と浅間高原の黒班山に登ったおりに富士山が眺められ、こんなに離れていても富士山は見えるのかと驚いた記憶もある。小学校の遠足で訪ねた風穴や青木ヶ原樹海などからは、火山としての富士山が造りだした自然の不思議さを感じた。かなり後になつてからであるが、北岳山荘から望んだ朝焼けの富士山

は、おくじょうから、おつこちそうになりました」と結んでいる。

その後も私は折々に、近くから、あるいは遠くから富士山を眺めてはその美しさにひかれていった。小学校低学年の頃、箱根を訪れた時が、富士山を間近に見た最初であろう。また、同じ頃、両親と浅

陽館に到着した。大陽館の手前の登りは結構こたえたように記憶している。

富士山初登頂

それから20年たつた昨年8月、私は待望の富士山頂に立つことが出来た。8月7日の昼頃に富士宮口を出発した時には雨模様であった。富士宮口の新六合目の山小屋を過ぎ、富士宮口登山道と別れ、霧のなかを宝永山へ向かい、その火口に至った。あいにくの天気で火口の大きさはよく認識できなかつたが、沼津付近から眺めると富士山の正面に巨大なクレーターのようには山中湖が美しく眺められた。

ご案内いただいた日本山岳会の山口英一氏や安間荘氏、そして他の何人かの岳人の方々と蚕棚状の山小屋の棚の上で行なつた団欒はとなり後になつてからであるが、北岳山荘から望んだ朝焼けの富士山

でも楽しかつた。

ところが、夜半から山小屋に打ちつける風雨のすさまじい音が聞こえはじめ、翌朝、外は霧が立ちこめて白一色となつた。雨はさほどひどくなかったが、風で砂飛びばされ、それが容赦なくほおにあたる。結局登頂は断念して、八合目から再び須走口に下山した。

途中から風雨も弱まり、砂地の下山道を面白いように早く下れたのが印象的であった。富士山に登ることの難しさ、山の怖さを感じた山行でもあつた。

天候も徐々に回復し、宿舎の赤岩八号館に到着したおりには、山中湖や御正体山、大室山といつた周囲の山々、丹沢、伊豆半島や三浦半島方面も眺められた。小屋の所では、父親に連れられた小学校3年生のお嬢さんから、学校の夏休みの宿題ということで、富士山に関する簡単なアンケート調査を求められた。父親からは、これからお嬢さんを連れて御殿場口まで下山するという話を聞いたが、暗くなつての下山とならなかつたか心配であった。

20年前に登つたおりには目にしなかつたが、今回は、山小屋に設置されたバイオトイレを利用する機会を得た。今、富士山では環境

の規模や被害がいかに大きなものであったか、そして、酒匂川の治水を含む復興事業がいかに困難であつたかなど、事前に読んでいつた永原慶二『富士山宝永大爆発』からあれこれ想像をめぐらした。宝永の大噴火から300年が経ち、富士山もまたいつ噴火するか分からぬと言われている。ハザードマップの作成や防災対策も重要な課題であろう。

天候も徐々に回復し、宿舎の赤岩八号館に到着したおりには、山中湖や御正体山、大室山といつた周囲の山々、丹沢、伊豆半島や三浦半島方面も眺められた。小屋の所では、父親に連れられた小学校3年生のお嬢さんから、学校の夏休みの宿題ということで、富士山に関する簡単なアンケート調査を求められた。父親からは、これからお嬢さんを連れて御殿場口まで下山するという話を聞いたが、暗くなつての下山とならなかつたか心配であった。



富士山山頂と測候所を望む

面でトイレやゴミが大きな問題となつていていると聞く。水を使用せずにおがくずを使用するこのタイプのトイレが、富士山やほかの山々、さらには広く発展途上国などでも普及すればよいと思つた。

山小屋の食事はとてもおいしく、食後にご主人やご家族から伺つた往古の富士登山の話や昔の山小屋の話はとても興味深かつた。また、当曰は三浦海岸で花火大会が行なわれていたようで、山小屋からも、小さくではあつたが、花が開くよう花火が打ち上がる様子を見てとることができた。

間近に眺める火口は切り立つて深く、雪も残つており迫力があつた。記録によれば、平安時代の9世紀には富士山頂に関する記述があることから、それ以前から人々は富士山に登り、火口を眺めていたことになる。レーダードームが撤去された山頂の測候所への最後が、日本一の高所からの光景はす

た空が茜色に染まり、美しいご来光であつた。赤岩八合館から御殿場口山頂までのおよそ1時間30分は、赤く染まつた富士山の山肌を仰ぎつつ、周囲の山々を下に見ながらの快適な登山であつた。植物もありない、多少歩きづらい砂礫地の登高は幼少時に浅間山登山のおりに味わつた感覺に似ていた。

御殿場口山頂から、銀明水、浅間大社奥宮方面に向かうとかなりの人であつた。夫婦やカップルと思われる人たち、子供連れの人、富士山に何十回と登つた人や、山はまったく初めてと思われる人々が登つていることを実感した。改めて日本一で「万人の山」であると思つた。

レーダードームはなくなつたが、富士山の測候所の建物では、引き続き、天気の観測や高所医療の研究、大気の観測などが行なわれ、その使命は継続しているように思われた。そのようななかで、小学生の時に試写会で見た、酷寒の厳しい気象条件の下で測候所の建設に命を懸けて取り組んだ人々を描いた、石原裕次郎主演の映画『富士山頂』を思い出した。

名残惜しい山頂を後に、お鉢巡りをして御殿場口へと下つた。豪快なスロープの下山道は実際に地よかつた。オンタデやフジアザミの群落がどんどん後方へと過ぎて登頂した最高峰であつた北岳をはじめとする南アルプスの山々の大きさを実感した2日間であつた。それから、3ヶ月ほどたつた11月中旬、私は三重県を訪れ、鳥羽市のホテルに宿泊した。翌日はすばらしい快晴で、海に面した私の部屋からは、早朝、伊勢湾に浮かぶ島々が美しく眺められた。ホテルの方から教えていたいて氣づいたが、島と島との間の海上遙かに、小さくではあつたが富士山が眺められたのには驚いた。こんなに遠くから富士山が見られるとは思つてもみなかつた。

昨年夏の富士山への登山者数はおよそ21万ひと聞く。さまざまな人々がさまざまな目的と思いをもつてこの日本一の山に向かつたのである。ただ、なかには落雷や病氣で亡くなられた方もおられるとうかがい残念に思う。富士山の姿は実に美しい。娘も小学校1年生になり、私が富士山の美しさに魅せられはじめた年代に達してきた。富士山の自然が守られ、今後何世代にもわたり、人々が富士山の美しさを享受できるよう心から願わざにはいられない。

マニフェスト

「山の日」プロジェクトにパワー結集を

会長 宮下秀樹

明るい年でありますようにと祈りながら元旦を迎えました。世の中は逆境、牛歩の年かもされませんが、会員の皆さま、心構えも強く、元気でよき年をお迎えのことと存じます。

会長に就任して2年目。年頭に当たつてまず「山の日」の制定運動を提案し、会員各位のご理解とご協力をお願いしたいと思います。仮に「山の日プロジェクト」と呼ぶことにしましょう。このプロジェクトでは、すでにいくつかの県で始まっている地域単位の「山の日」を全国に広め、その日を中心にして山に親しみ、山を尊び、多岐多様なイベントを企画、推進します。健康的かつ文化的な催しを通じて山に親しみ、山を尊び、敬う気風を育てる。山岳への関心を高め、美しい自然を後世に残そうとするのが目的です。

海に囲まれた日本は、豊かな森と美しい山岳景観を連ねた山の列

島であり、「山の文化」と「海の文化」が融合して日本の伝統ある文化が築かれたと言われる由縁です。

日本山岳会創立100周年事業の大きな柱として取り組んだ中央分水嶺踏査では、1000人以上の会員が長期にわたって列島の脊

梁山脈を手分けして歩き、5000キロを線で結びました。それぞれが森や木や動物など自然界の万物を身近に感じ、共生することの大切さを感じたプロジェクトでした。「山の日プロジェクト」は大勢の会員が参加したこの分水嶺踏査の延長線上にあります。イベントに参加する人をさらに増やし、活動舞台の裾野をさらに広げることを企図しています。より多くの人々、国民に、「山」を身近で大切な存在と認識してもらいたいという願いが込められています。

【目的及び事業】を思い起こしていく下さい。「本会は、山岳に関する研

究、知識の普及および健全な登山指導、奨励をなし、あわせて会員相互の連絡懇親をはかるとともに、登山を通じてあまねく体育、文化ならびに自然愛護の精神の高揚をはかることを目的とする」。この目的に沿つて「山の日」づくりを広範に呼びかけ、各種イベント推進の先頭に立ちたいと考えます。プロジェクトの視野の先には、国民祝日としての「海の日」に並ぶ「山の日」の制定を思い描いています。

企画・運営に支部パワー

イベントは当面、JACの各支部を中心に行なうことでご理解を得たいと思います。「山の日」の活動内容としては①登山活動（市民登山・ハイキング、親子登山、登山教室など）、②文化活動（講演・映画・音楽会、シンポジウム、図書・写真・絵画展・スケッチ会など）、環境保全活動（森づくり、里山保全、観察会など）。いずれにせよ地域に密着した、より多くの人々が参加できる企画を、皆さんで考えていただきたいのです。企画を推進し、イベントを盛り上げるには自治体やメディアの力も必要です。

JACの会員構成はいまや、年齢的に「登山（の実践）を通じて

あまねく体育、文化、自然愛護の精神の高揚をはかる」という目的から少しズレています。登山そのものが、体力、技術、判断力、経験によつて支えられ評価されたアルピニズムの時代とは、大きく変わりました。山は先鋭的な少数のパイオニアワークから、より広範の人々によって支えられる「健康登山」に重心が移り、日本山岳会に求められている役割が、経験、知力、企画力、指導力に移つていることを認めざるを得ません。

自らが楽しむとともに、子どもたちを含む次世代を育てることに重心が移つているように思われます。「山の日プロジェクト」にJACのパワーを結集させる意味が、この点にあると考えました。

広島支部からいただいた「第7回ひろしま「山の日」県民の集い」のパンフレットには、県内5つの会場で行なわれた催しの数々が書かれており、「山に親しむ、山を楽しむ、山に学ぶ」というキヤッチフレーズで里山、森、自然観察会に参加を誘い、「各会場の特徴を活かしたプログラムで運営します」と書かれていました。

また、新年発行の東海支部報に

はネパール音楽とダンス公演のチラシが挟まれており、後援にJA C 東海支部が名を連ねていました。東海支部が森を舞台として催す音楽会や観察会と並ぶ、文化活動の広がりとして注目しました。

「山の日プロジェクト」の大枠については昨年12月の支部長会に語つたうえ、理事会の承認を得ました。

2月に開かれる支部事務局担当者会議を経て、具体的なスケジュールを決める方針です。「山の日」を何月何日に設定するのか。実施日を統一、特定せず、当面各支部、地域の事情にまかせるやり方もあります。すでに「山の日」がある支部との兼ね合いもあり、今後の検討課題です。

いざれにせよこのプロジェクトは、今後、多数の会員が参加する年間行事として定着させることで、会員相互に強い一体感をもたらすものと確信します。各位のご協力ををお願いいたします。

新公益法人法への対応

話を次の課題に移します。昨年、年頭に当たつて私は、08年日本山岳会の課題として「公益社団法人化推進」と「首都圏ブロックの支部化推進」を挙げました。このうち昨

年12月に施行された新しい法人制度は、「公益法人」か「一般法人」か、それとも第三の道かという選択肢が、向こう5年間という期限付きで迫っています。正直などころ1年前には、税制上優遇され、法人資格のハードルが高い「公益法人」の選択をベストと考える向きが多数でした。

しかし「公益法人」を選んだ場合、JAC会員以外の不特定多数を対象とする『公益目的事業』の実施義務規定と、財務・会計処理に対する国側からの厳しい要求（制約）などを考慮すると、むしろ「公益法人」を選択しないほうがいいという意見が「公益法人化プロジェクトチーム」（竹内哲夫委員長）でも聞かれます。収入のほとんどがメンバーアンダーライブ（会員の会費）であり、JAC（支部）の名のもとに行なわれている各地の「森づくり」の活動に、近く一定のルールを作りたいと考えています。いわゆる「森づくり」は、東京では自然保護委員会の活動の一環として、また地方ではそれぞれの支部に委ねられた活動として行なわれていますが、JACにふさわしい活動とは何か、基本的な共通認識をルール化する時期にきたように思いました。

なお、法人格の選択とは別に新法の施行に伴つて当会の定款を改定する必要に迫られていますので、「定款（案）検討委員会」（内田博委員長）で審議中です。改定案は

早ければ5月の平成21年度総会にお諮ります。

首都圏の支部化推進

首都圏での支部設立の動きについては、昨年6月、多摩支部設立懇談会が開かれたことを神崎副会長が報告しました（会報『山』7月号）。次の段階に進み、設立に目途をつけるのが今年前半の課題です。発足2年目の栃木、茨城、千葉の3支部が順調に会員数を増やし、活発に活動しているのはうれしいことです。

「森づくりの会」にルール

JAC（支部）の名のもとに行なわれている各地の「森づくり」の活動に、近く一定のルールを作りたいと考えています。いわゆる「森づくり」は、東京では自然保護委員会の活動の一環として、また地方ではそれぞれの支部に委ねられた活動として行なわれていますが、JACにふさわしい活動とは何か、基本的な共通認識をルール化する時期にきたように思いました。各グループ、地域にはそれぞれの事情があり、自主性、主体性は尊重しなければなりません。しかし、作業の安全確保、運営の透明性、自然保護委員会への報告義務など、基本的なルールをはつきりさせておきたいと思います。

さて、ご挨拶の終わりに、未踏の高峰や魅力的な岩壁、難しい氷壁を目指す若い人たちに、かつては、より高くより困難な登攀を目指した登山者のひとりとして、励ましのメッセージを送ります。

私は、晩餐会の日、東海支部によるローツエ南壁完登（秩父宮記念山岳賞）の報告と、JACがいささかなりとも支援した2つの若者グループによる登山報告を興味深く拝聴しました。また昨秋のクライミングリーダー登山隊は不幸にしてアクシデントに見舞われましたが、志の高い計画でした。ほかにも創造的で個性豊かな登山のいくつかを耳にしていますし、学生部の中・韓三国交流登山もあります。

若い人たちのためにもう少し何かをしなければとの思いはあります。が、なかなか具現できないのが悩みの種であり、悔しくもあります。会員によるものか否かを問わず、若者たちの挑戦に、登山者集団であるJACの熱い視線を注ぎ、出来るかぎりのサポートをしてゆきたいと思います。会員諸兄の積極的な提案を希望いたします。

クロニクル

2つのヒマラヤ難壁の初登攀

昨年の秋、インドのガルワール・ヒマラヤに2つの登山グループが挑んだ。「最難」と言われるヒマラヤの壁に挑み、ともにアルパイン・スタイルで初登攀した。山岳会の海外登山基金から助成登山に選ばれ、暮れの晩餐会でも報告がされた。

カランカ北壁「武士道」初登攀

インドのガルワール・ヒマラヤ、ナンダ・デヴィ山群にあるカランカ(6931メートル)は、西隣にあるチャンガバンとともに、そそり立つ峻峰だ。この未踏の北壁に、一村文隆、佐藤裕介とともに、9日間のアルパイン・スタイルで初登攀した。

2008年9月1日、標高4500メートルのベースキャンプへと到着した。第一目標のカランカ北壁基部付近にて偵察をしながら順応活動をしようと思っていたが、BC裏の丘から無名峰を6000メートルインまで上がり順応を済ませた。数日間のレスト、登攀準備の後、天候が安定したと思い、BCを出発した。

9月14日、ABCへ移動。BC

からは見えていなかつたカランカ

北壁を正面に見ながらのアプローチ。ここ数日間の降雪をまとった山容は非常に美しく、かつ莊厳だ。15日、ABCから6000メートル地点へ。2時半起床、5時取り付く。氷雪壁、一部岩混じりのミックス。テントの張れるスペースを探して21時ころまで動き続けるが場所がなく、いきなりハードな行動でほぼ24時間起きるはめに。結局、座つたままのオープンビバーク。快晴なのが救いだった。2時ころ就寝。16日、6100メートル地点へ。継続登攀で氷雪壁を右へとトラバース。今日こそ露岩の下にスペースを見つけテントを張ろうと掘り進むが、厚い氷に阻まれる。結局、今晚も座つたままのオープンビバーク。

17日、6550メートル地点へ。威圧

的に聳えていた上部壁に入る。しかし、途中から天候は崩れだし、激しいスノーシャワーを浴びながらこの壁の核心部を登攀。9ピッチのミックス壁。バイルもクラシックも見えないほどのスノーシャワーが辛い。激しく雪の降るなか、ヘッドランプでビバーク地を求めクライミングを続けたが、星型の1畠ほどのテラスを切り出すのがやっと。底をあけることの出来るテントを強引に被つて耐える。

18日、6700メートル地点まで登り、6600メートル地点でビバーク。

相変わらず降雪が続き、スノーシャワーが滝のように降つてくる。この場所で停滞など論外だ。1ピッチ半でテントの張れそうな岩の基部を発見。上部を偵察してから、そこで幕営。テントの端は30センチが谷に落ち込み、幅も120センチ程しかないが、雪崩の恐怖を岩から守られ、この壁ではあらかた雪崩れきていたようだが、降り積もつた雪が足元からバサバサ雪崩れいく。視界の利かないクーロワール内の登攀は非常に恐ろしかった。トラバースも多く、標高差たつた300メートルを9時間かけてカランカ頂上へ。時刻はすでに17時半。ナ

ンダ・デヴィは雲に隠れて見えず、かろうじて隣のチャンガバンの南壁が見えたのみだった。



カランカ北壁（左）とチャンガバン

ンと懸垂下降を繰り返す。テントに戻つても食べるものが無いのが悲しい。

23日、氷河取付へ。少々雪がちらつくが、ここ数日のなかでは最高の天氣だ。岩角に捨て縄をセットしながら同ルートの懸垂下降を繰り返す。懸垂は合計15ピッチほどしただろうか。

24日は、素晴らしい快晴のなか、デボを1トル程の雪から掘り起こす。久しぶりのまともな固形物を腹いっぱい食べてから出発するが、3

日は、晴らしのなか、間、すべてがうまくいってこのランを完登できたのだと思う。自分の周りにいる人、物、すべてに感謝したい。

(天野和明)

カメット南東壁「侍」初登攀

ガルワール山群にあるカメット

(7756メートル)は、7000メートル峰で

未踏の壁があり、アルパイン・スタイルの似合うルートでもあつた。

2008年9月1日、ベースキ

ヤンプ入り。4日から第1回高所順応とルート偵察。10日、BCにて2日休養したのち、第2回高所順応とルート偵察行へ出発。

今回の目的は、ノーマルルートから7000メートルのミーズコルまで順応することと、6600メートルのC4から壁の中間部から上部を偵察することである。C4には2泊し、壁の様子を3日間にわたって観察。

登攀中の核心部は3カ所と確認、壁のなかでのビバークは最低3回になるだろうと予想。持参する食料は4日分と予備行動食3日分とした。

BCでの休養に入つた翌日から天気は一変。大雪が1週間降り続

き、結局10日後の9月26日、BCを出発、南東壁登攀へと向かつた。

深雪のなか、東カメット氷河をC1、C2と進み、壁の基部5900メートルにてABCを設営。

29日、快晴周期4日目にカメット南東壁登攀は始まつた。クレバ

スを越えて雪と氷と岩のガリ一へ。

人とも消耗が非常に激しく、遅いペースでしか進まない。なんとか19時半に11日ぶりのBCに到着した。

BCでは心配してくれていたりエゾンオフィサー、コックに思いつき抱きしめられ手厚い歓迎を受けた。やっぱりヒマラヤはいい。

最後には恵まれた天氣と楽しい仲間、すべてがうまくいってこのランを完登できたのだと思う。自分の周りにいる人、物、すべてに感謝したい。

第二核心。ボロボロの氷と岩が容赦なく立ちはだかり、続く。第二核心は1日で越えられず、氷の棚を切つてテントに入ったのは夜も更けたころ。2日、7100メートルへ。

第一核心を抜けて雪壁を進み、第

10月1日、7000メートル地点へ。

第二核心。ボロボロの氷と岩が容赦なく立ちはだかり、続く。第二核心は1日で越えられず、氷の棚を切つてテントに入ったのは夜も更けたころ。2日、7100メートルへ。

第一核心を抜けて雪壁を進み、第

5日、チベット高原から昇る朝日とカイラスを拝んだ朝、1時間ほど雪壁を登ると、そこにカメットの頂上が待つていた。相変わらずの好天に、360度の大展望だ。世界の果てまで見えそうなくらいたくさん山があつたけれど、やはり地球は丸く、その先は地平線となつて消えていた。

壁のなかにいた6泊7日は、もちろん恐怖との闘いでもあつた。核心を乗り越えるたびに次の核心が現われ、私たちを試していた。しかし、早く終わりにして逃げ出したいという気持ちの反面、1日でも長くこの壁のなかでクライミングを楽しんでいたいという一面もあつた。今までのシブリン北壁やムスターク・アタ東稜の実績があつたからこそ、カメット南東壁が登れたと思う。

(平出和也、谷口けい)



カメット南東壁。ルートは頂上へほぼ直上する

この日はほとんど、急な氷雪壁。

氷を切り、半分ぶら下がつて6600メートル地点にビバーク。30日、6

750メートルへ。第一の核心部。グサ

グサの氷と岩とスカスカ雪のミックス登攀が始まる。夜の間中、チ

リ雪崩がテントを襲っていた。

10月1日、7000メートル地点へ。

第二核心。ボロボロの氷と岩が容赦なく立ちはだかり、続く。第二

核心は1日で越えられず、氷の棚

を切つてテントに入ったのは夜も

更けたころ。2日、7100メートルへ。

第一核心を抜けて雪壁を進み、第

10月1日、7000メートル地点へ。

第二核心。ボロボロの氷と岩が容赦なく立ちはだかり、続く。第二

核心は1日で越えられず、氷の棚

を切つてテントに入ったのは夜も

更けたころ。2日、7100メートルへ。

第一核心を抜けて雪壁を進み、第

10月1日、7000メートル地点へ。

第二核心。ボロボロの氷と岩が容赦なく立ちはだかり、続く。第二

核心は1日で越えられず、氷の棚

を切つてテントに入ったのは夜も

更けたころ。2日、7100メートルへ。

第一核心を抜けて雪壁を進み、第

10月1日、7000メートル地点へ。

三核心下にて早めに行動終了。

3日、第三核心、岩と氷のミックスから氷。これを抜けて、上部

バナナクロワール、7250メートル

へ。4日、バナナクロワールの

雪壁をひたすら登り、雪稜近くの

クレバスのなか、7600メートル地点

にテントを張る。

5日、チベット高原から昇る朝

日とカイラスを拝んだ朝、1時間

ほど雪壁を登ると、そこにカメット

の頂上が待つていた。相変わらずの好天に、360度の大展望だ。

世界の果てまで見えそうなくらい

たくさん山があつたけれど、やは

り地球は丸く、その先は地平線

となつて消えていた。

壁のなかにいた6泊7日は、も

ちろん恐怖との闘いでもあつた。

核心を乗り越えるたびに次の核心

が現われ、私たちを試していた。

しかし、早く終わりにして逃げ出

したいという気持ちの反面、1日

でも長くこの壁のなかでクライミングを楽しんでいたいという一面もあつた。今までのシブリン北壁やムスターク・アタ東稜の実績があつたからこそ、カメット南東壁が登れたと思う。

(平出和也、谷口けい)

オピニオン

山岳遭難後方支援の病院に 医師不足の波

牛越
寛

近年、中高年を中心に登山ブームとなつてゐるが、一方で、賑わいに比例するかのように山岳遭難も増加の傾向が見られる。2008年の夏山も遭難が多発した。滑落や土砂崩落、落雷のほか、高山病や体調不良などの病気遭難が続発した。長野県では昨年、夏山遭難が過去最多を記録している。

年に大町町立病院として開設され、自治体病院としては長野県でも最も古い歴史を持つ病院である。病院開設以来、地元住民はもとより、後立山連峰などで起きた遭難者や急病者などの治療も数多く手がけってきた。

湖、大町山岳博物館など観光資源にも恵まれ、年間約300万人の観光客が訪れている。さらに、大町市はスキーリゾートとして名高い白馬・八方尾根の表玄関に位置しており、最盛期よりははるかに減ったとは言え、冬季のスキー客はまだまだ多い。

科の充実が理想だが、まず住民から要請の強い内科の常勤医確保に万全をつくしているのだが……」と苦渋に満ちた表情で語る。

さらに、山好き、スキー好きの医師も在籍しているが、医師不足のため、まとまつた休暇が取れない。全国から、山好き、スキー好きの医師にさらに大勢集まつても

である。現在全国の病院で勤務医師の不足が問題となつており、特に地方の中小病院では一層深刻なものとなつてゐるという。

後立山連峰などの登山口である長野県大町市。ここには病床数280床を有する市立大町総合病院がある。

市立大町総合病院では、すでに06(平成18)年までに耳鼻咽喉科、眼科、脳神経外科の常勤医師が大学などに撤退し、その後は週、数日の非常勤体制に移行していた。09(平成20)年には、病院診療の基本である内科が8人から、一時期は3人(現在は4人)にまで減

職員数からすべての疾患に対応することは不可能であるが、可能な限り、地域住民の病気治療や観光客、スキー客などの救急対応にも努力していきたい。すべての診療

らい、地域に安心してもらえる医療を提供した上で、自分たちの趣味も十分満喫できるような、活気のある病院にしていきたい」と、山の麓の自治体病院の現状と理想を述べた。

少し、診療制限をせざるを得ない状況に追い詰められ、累積赤字も増大している。



坂倉登喜子 (さかくら・ときこ)
1910年、東京生まれ。1947年、日本山岳会入会（会員番号3041）。入会後、婦人部創立に携わる。1955年、エーデルワイス・クラブを創立し、女性登山の向上や後進の指導に当たる。エーデルワイスに魅せられ、国内外花追いの山旅を続ける。1992年、名誉会員に推挙。主な著書に『エーデルワイスの詩』(名溪堂)、『女性のための百名山』(山と渓谷社)など。

坂倉さんは2008年12月3日、98年の生涯を静かに終えられた。ご自身で生涯現役とおっしゃつていただけ、エーデルワイス・クラブ50周年記念山行奥武藏には、95歳で参加されていた。その後も私たちが訪問すると、「散歩しましょう」と外に誘い、近所を一周するお姿には感服する。

日本山岳会には、1947年(会

山と花を愛した 坂倉登喜子さんを悼む

松田柳子

★
追
OBITUARY

悼

員番号3041）入会。当時、御茶ノ水ニコライ堂の近くにあつた

ルームに毎日のように通い、東京

支部の仕事や、村井米子氏らと婦

人部作りにも加わった。この頃、

村井・中村テル・黒田初子・川森

左智子・今井喜美子各氏諸先輩と

出会う。女性登山が今日あるのは

この先輩方あつてのことと感謝の

念を抱いたそうだ。この気持ちが

後に「女性登山史」を手がける基

となつたといえよう。またこの頃、

神谷恭氏の土曜会や三水会に集ま

つて、多くの憧れの岳人達と親し

く交わつた。

また、クラブ内に植物部、カメラ部、山旅部、登山技術研究部、コーラス部、スケッチ部、スキーパー、探鳥部等を次々に作り、それぞれ個性ある山行を計画するようになつた。5年ごとの海外登山、写真展、年2回発行の会報『Edelweiss』はいずれも坂倉さんのアイデアで今に続いている。

毎年6月初旬、上高地で行なわれる信濃支部主催のウエストン祭には必ず参加されていた。それは

95歳の2005年まで欠かすことなく、58回にも及ぶ。また、85歳

まで続けられた徳本峠越えは、横

有恒氏の記録にひそかに挑戦して

いたのだろうか。エーデルワイス・

クラブのコーラスが加わって、華

やかな一時代を画した。坂倉さん

をこんなにも通わせたのは、何よ

かつたが初步の指導も大切だと思ふ。1955年3月に、女性だけの山岳会「エーデルワイス・クラブ」を作つた。「登山技術を磨くのと同時に自然の美しさを感じ取れる感受性豊かな人を育みたい」との信念で、この事業に取り組んだ。私が坂倉さんと出会つたのは、クラブ発足1年後の頃だつた。

また、クラブ内に植物部、カメ

ラ部、山旅部、登山技術研究部、

コーラス部、スケッチ部、スキーパー、探鳥部等を次々に作り、それ

ぞれ個性ある山行を計画するようになつた。5年ごとの海外登山、写真展、年2回発行の会報『Edelweiss』はいずれも坂倉さんのアイ

デアで今に続いている。

坂倉さんのライフワークであつたエーデルワイスを訪ねる旅は、

1995年、オオヒラウスユキソウを訪ねて北海道崖山に出かけ

撮影。その後、釧路でエゾウスユキソウの情報を得て、釧路に向か

い感激のご対面を果たした。1999年、89歳の時だつた。

坂倉さんは、1935年、谷川

岳のザンゲ岩の岩陰に咲く「ホソ

バヒナウスユキソウ」に魅せられ

て以来70年、日本のエーデルワイ

スすべてを訪ねた事になる。コレ

クションは1000点を超える。

坂倉さんのお気に入りの場所に雲ノ平がある。3年かけて雲ノ平を調べ、良さを知つた坂倉さんは、1958年、テントを持ってリレーハウスを計画した。小屋のない時代、体力のない人も雲ノ平の朝を味わうためにとの心遣いだ。このテント合宿は10年ほど続いた。

坂倉さんのライフワークであつたエーデルワイスを訪ねる旅は、テント合宿は10年ほど続いた。

坂倉さんのライフワークであつたエーデルワイスを訪ねる旅は、1995年、オオヒラウスユキソウを訪ねて北海道崖山に出かけ撮影。その後、釧路でエゾウスユキソウの情報を得て、釧路に向かい感激のご対面を果たした。1999年、89歳の時だつた。

坂倉さんは、1935年、谷川岳のザンゲ岩の岩陰に咲く「ホソバヒナウスユキソウ」に魅せられて以来70年、日本のエーデルワイ

スすべてを訪ねた事になる。コレクションは1000点を超える。

早池峰の麓に計画中のエーデルワイス記念館の開館を楽しみにしておられた。



東尋坊の岩場でフリークライミングを楽しむ

白山 越前馬場と東尋坊

鈴木正規

福井県三国町の東尋坊といえば、柱状節理の断崖が海面から屹立しており、北陸地方の代表的観光地の一つとして知られている。かつて、福井鉄道山岳部や福井大学山岳部など福井県下の岳人はここで岩登りの腕を磨いた。現在ではア

平安時代には白山を取り巻く加賀、越前、美濃の三方面から白山へ登拝する道が開かれており、その基地としてそれぞれ馬場があつて、それらは加賀馬場、越前馬場、

れていれば白山連峰が見渡せるのだが、実はこの東尋坊が白山とまんざら無縁ではないのだ。

ルパイン・スタイルのクライミングより、フリークライミングのゲレンデと化しているようである。

東尋坊の少し沖合いからは、晴れていれば白山連峰が見渡せるのだが、実はこの東尋坊が白山とまんざら無縁ではないのだ。

1574(天正2)年、一向一揆による戦乱で平泉寺は全山焼失した。現在はその後再建されにくつかの社殿などが残るだけだが、鬱蒼たる苔に覆われた境内のそこかしこに、往時を偲ばせる礎石が見られる。

平泉寺衆徒の中には悪僧も少なからずいたといわれ、なかでも東尋坊は手を焼く乱暴者だったそうである。ある日、彼は三国の海岸で酒のうえの喧嘩のため岸壁から海へ突き落とされて行方不明となり、そういう関係でそこが東尋坊

東西南北

N

S

会員の皆様のご意見、エッセイ、俳句、短歌、詩などを掲載するページです。どしどしご投稿ください。(紙面に限りがありますので、1点につき1000字程度でお願いします)

美濃馬場と呼ばれていた。

東尋坊の名は、越前馬場である、現在は福井県勝山市の平泉寺の一僧に由来する。

平泉寺は白山開祖の泰澄大師が白山に登った登山口であるとされる地で、戦国時代には広大な莊園や院坊合わせて6000坊、そして8000人といわれる僧兵を擁し、白山信仰をもつてする一大勢力を誇っていた。山伏姿に身を隠して奥州平泉へ逃げる源義経一行が平泉寺に立ち寄つたとも言い伝えられており、平泉寺と平泉の両者に何がしかの関係がありそういうことをうかがわせる。

1574(天正2)年、一向一揆による戦乱で平泉寺は全山焼失した。現在はその後再建されにくつかの社殿などが残るだけだが、鬱蒼たる苔に覆われた境内のそこかしこに、往時を偲ばせる礎石が見られる。

現在、平泉寺という寺はない。あるのは白山神社である。かつて白山信仰の中心地として栄えた平泉寺は寺でもあり、神社でもあつたのだ。しかし、明治の神仏習合廃止により、神社として存続することになったわけである。

目下、平泉寺では発掘調査が行なわれている。これからさらに本格的な発掘がなされるようであり、東尋坊や義経、もつと古くは泰澄大師にまつわる数々の伝説が学術的に検証されることを期待したい。



ナンダ・コート山頂を目指して北東稜を登る隊員

ナント・コート山頂を目指して北東稜を登る隊員
1936年（昭和11）年9月、立教大学隊（堀田弥一隊長）は、ガルワール・ヒマラヤの「ナンダ・コート（6867メートル）」を目指し、登頂の壮挙を果たした。この遠征が、日本のヒマラヤ登山の端緒を切り拓くものとして大きな成果をもたらしたことは言うまでもない。

1936年の時代背景として浮かぶのは二・二六事件、阿部定事件、ベルリンオリンピックなどだ。開催にあたり、立教大学山岳部OB・太田晃介会員より、隊長であつた堀田さんの近況報告と併せていただいた。堀田さんは現在99歳、お元気にお過ごしで、1月30日に100歳を迎えるとのこと。

上映に先立ち、03年10月16日に当委員会主催で行なった講演会DVD（企画・製作・編集ともに資料映像委員会）を披露した。堀田

08年10月30日、日本初のヒマラヤ遠征『ナンダ・コット征服』の貴重な記録映画を上映。この日、70年前のヒマラヤ登山がスクリーンで甦った。

資料映像委員会

フィルムアーカイブのタベ



日本山岳会の各委員会、同好会の活動報告です

さん独特の口調で、大正デモクラシーの自由な時代に育んだ登山、未知の山への憧れ、そして立山からヒマラヤへと挑んだ経緯などが語られた。

ひき続き『ナンダ・コット征服』を上映。記録映画を撮ったのは隊員・大阪毎日新聞社の竹節作太、

1936（昭和11）年9月、立

カーナーは「アイモ」という35ミリの

撮影機だ。竹節は現在とは比べてもならないほど重いカメラを担

ぎ、つぶさに登山の様子を撮影し

ている。そして、6000トル級の

山々の稜線を見事に収めている。

特に山頂のシーンは圧巻だ。

1936年10月5日、登山隊5名（堀田弥一、山縣一雄、湯浅巖、浜野正男、竹節作太）に登頂の瞬間が近づく。初めて体験する6000トルの世界へひと足、またひとつと徐々に高度を上げていく。コマ送りのようなフィルムから、そのステップと息遣いが伝わってくる。雪稜で息を荒だてる姿が大きく映し出され、ついに登頂の時をむかえる。午後2時55分、全隊員が念願のナンダ・コット頂上に立つたのだ。日本人初のヒマラヤ登頂の瞬間だ。

この作品は、日本初のヒマラヤ遠征登山の貴重な山岳映画であり、フィルムアーカイブとして高く評価できる作品であろう。

この作品は、日本初のヒマラヤ遠征登山の貴重な山岳映画であり、フィルムアーカイブとして高く評価できる作品であろう。

集会委員会

懇親山行あれこれ

3年ぶりという皇太子殿下が出席された晩餐会の翌日は快晴で明

して、興奮気味の「立った、立ったぞ！ われらはついに立った！」のナレーション。この声が登頂のシーンを盛り上げる。

けた。恒例の懇親山行の舞台は関東平野の名山・筑波山であった。

参加者は98名と大盛況。遠来の人の帰宅の便を考えたのであろうか、交通機関をフル活用した山行でもあった。

集合はつくばセンター（つくば山行きシャトルバス乗り場）9時で、ほとんどの人が営業後の日も浅い真新しいつくばエクスプレスを利用したようである。特別チャーターバス2台に分乗した一行は筑波神社入口に直行し、各自、筑波神社境内を経由してケーブルカー



98人が参加、大盛況の懇親山行となった

一駅に移動し、10時前後には双耳峰の中間にある標高800メートルの御幸ヶ原に到着した。

季節柄、評判の多様な植生を楽しむのは無理ではあるが、紅葉の名残りはそこここに見られた。また神社の境内ではガマの油売りの口上が披露されていて、初めての人には楽しめたようであった。下山口の都合で、まず男体山を往復し、続いて女体山の一等三角点を訪れる。どちらの頂上も展望は申し分ない。関東平野と周辺を縁どる山々が一望の下にある。

昼食予定地のつくばキャンプ場へは女体山の少し手前から北面に下る。南面の登山道が所どころ修驗道の名残りを留めているのに対し、実に歩きやすい長閑な道である。30分ほど下っていくと、遥か彼方に広場と立ち働く人の群れが見えてきた。あれこそ恒例の集会委員会心づくしの豚汁であろうかと期待は高まる。

期待に違わぬ午餐を楽しみながら、いろいろなアルコール類があちこちから現われる。全員集結を確認したところで、12時40分頃、集合写真を撮り、現地解散となつた。

(古市進)

秋の撮影会報告

アルパインフォトビデオクラブ



日の出の一瞬、シャッターチャンスを狙って撮影

10月18日～19日、撮影会を長野県入笠山で行ない、ベースハウスとして7年ぶりに入笠小屋にお世話になつた。

18日は上高地、八ヶ岳、秩父などをそれぞれの会員が撮影しながら午後3時に小屋に集合した。夕食まで小屋付近の撮影、2階展望風呂で甲斐駒を見ながらの入浴などでひと時を過ごした。

懇親会は川嶋会員の挨拶と乾杯の音頭で始まった。今回、都合で参加できなかつた羽田代表より飛

騒の原酒の差し入れがあり、会は大いに盛り上がつた。

懇親会終了後、暖炉を囲み写真談義に花がさいた。最近、写真の傾向としてデジタル化が進み、われわれカメラマンにとつて避けては通れぬものとなつてゐる。そこで、デジタルに詳しい北村会員が持参したアルバムを見せていただきながら、いろいろ教えを願つた。綿貫会員からは、あるカメラ雑誌に出ていた記事について耳寄りな情報もあつた。それは、フルサイズデジタルは銀塩中判を超えるつた。

秩父宮記念スポーツ博物館

東京都新宿区霞ヶ丘町10-2 03-3403-1159



入館料 一般300円、高校生以下100円
* 団体(20人以上) 一般200円、高校生以下50円

* 未就学児童、障害のある人とその付き添いの方1名は無料

開館時間 9:30~16:30
(入館は16:00まで)

休館日 第2、第4火曜日、年末年始
(競技場大規模イベントにより臨時休館する場合あり)

交通 都営大江戸線国立競技場駅A
2出口より徒歩1分、JR総武線千駄ヶ谷駅より徒歩5分

— スポーツ 歴史と遭遇から未来への展望へ —

秩父宮記念スポーツ博物館は、今年1月6日に開館50周年を迎えた。

「スポーツの宮さま」、「登山の宮さま」としてひろく国民に親しまれ、わが国20世紀前半のスポーツ振興に多大の功績のあった秩父宮殿下を記念し、その7回忌を期して国立競技場内に博物館が開設されたのは、競技場完成の翌年のことであった。

館内の展示は、日本のスポーツとオリンピックの歴史を中心に展開。山岳関係では、マナスル初登頂時の山頂の石などを見ることができる。

野球、サッカーなどの競技種目別の博物館やアスリート個人、あるいは郷土出身のアスリートたちを記念する施設は、数多く存在するが、スポーツ全般とその歴史を対象とする博物館は、わが国ではここひとつのみである。

隣接のスポーツ図書館は、平日のみの開館だが、スポーツ関連書のみを集めた、めずらしい図書館で、明治期以来のわが国のスポーツに関する貴重本から、現在のスポーツ事情にいたる資料を収集公開しており、とくに雑誌のバックナンバーが充実している。

現在、開館50周年記念特別企画展として「スポーツ あの頃といま」という展示会(3月22日まで)を行なっており、企画展の特別プレゼントとしてご来館の方に秩父宮殿下が書かれたスポーツに関する全エッセイを集めた冊子『秩父宮とスポーツ』を進呈中である。スポーツ界に対する提言のみならず、ご自身の体験にもとづく登山に関する文章も掲載されていて、山岳関係者はもとより、一般読書人にとってもたいへん面白い本に仕上がったので、ぜひご覧いただければと思う。

ビーは11月の例会で会員に配られ
た。

また、長いこと入笠山の環境問題に取り組んでこられた小屋の主人の駒井氏から最近の様子を伺つた。入笠山は車でのアクセスがよい場所なので、将来は上高地や乗鞍と同じような方法をとらざるを得なくなるだろう、とのことだった。緊急の问题是、シカの増殖に困っているということ。平日には、小屋の前の芝生でのんびりくつろいでいるシカもいるそうで、苦笑

た。しかし、カメラマンは元気。寒さは何のその、パノラマスキーサーに向かう。八ヶ岳方面の日の出の一瞬をカメラに収めるためである。朝食後は入笠山に登り、快晴のもと360度に展開する山々をバックに紅葉を入れ、カメラのシャッターを切つた。

撮影会が終わり、マナスル山荘の前で解散式を行なつた。

(山本武志)

森啓会員のお別れ会開催

昨年12月27日夕刻、中央アルプス檜尾岳の稜線から滑落し、死亡した青年部委員長で指導委員会委員の森啓氏のお別れ会は、1月10日午後、約500人が集まり、アルカディア市ヶ谷で開催された。父君で会員の森武昭氏とご家族が遺影の脇で参会者に丁寧に挨拶されている姿に涙する者も多かつた。

森啓氏は、若手会員の中心メンバーの一人として青年部委員長をつとめながら、指導委員会の中核委員として活躍していた。同委員会が一昨年から力を入れてきた、公益活動の一環として、とくに山スキー・スノーボードなどの山岳滑降愛好者向け

講習会では現場指導からマネジメントまで手がけていた。日本大学の電気工学研究者として博士号をもち、国家公務員試験I種にも合格している、緻密な頭脳と実行力は山でも存分に發揮されていた。また、今シーズンから本会が開始した冬山天気予報計画の実施にあたつては、的確な意見を述べ、その実現に寄与してくれたのである。

森会員がいなくなつた青年部と指導委員会は、これから活動を通じて、彼を失つた現実をひしひしと感じてゆくことになるだろう。痛恨の極みである。

(指導委員会委員長 黒川惠)

84	チョモランマ・チベット—日本山岳会珠穆朗瑪登山隊公式報告	日本山岳会珠穆朗瑪登山隊公式報告	講談社	S 56 カバー 西堀栄三郎他の署名あり	1000
113	「山岳」総合索引 1906-1990	日本山岳会 / 編	緑蔭書房	1993 函	800
116	山のABC	尾崎喜八・深田久弥・串田孫一・畦地梅太郎・内田耕作 / 編	創文社	S 35 再版 カバー 箱	1500
117	ハイランド	辻村伊助	梓書房	S 11 普及版 函	1000
118	スイス日記	辻村伊助	思索社	1949 函	1000
119	山のパンセ	串田孫一	実業之日本社	S 32 再版 カバー	800
121	チロル傳説集	山上雷鳥	黒百合社	S 7 函	1500
129	山の憶ひ出 上・下	木暮理太郎	大修館書店	S 50 復刻版 函	2000
130	雪・岩・アルプス	藤木九三	大修館書店	S 50 復刻版 函	1000
131	ヒマラヤの高峰 1~5	深田久弥	雪華社	1964~65 函	2000
136	たった一人の山	浦松佐美太郎	文藝春秋新社	S 33 3版 函	800
137	雪原の足あと	坂本直行	茗溪堂	S 40 カバー 函	1000
138	スイス・パノラマ	エーミール・シュルテス 福田宏年 / 訳	実業之日本社・アルテミス社	S 57 カバー 函	800
139	わが登高行 上・下	三田幸夫	茗溪堂	1979 函	2500
140	登山史の発掘	山崎安治	茗溪堂	1979 函 献呈署名あり	1000
141	登山史の周辺	山崎安治	茗溪堂	1984 函 署名あり	1000
142	山稜の読書家	島田 異	茗溪堂	1985 函 献呈 署名あり	1000
143	山・人・本	島田 異	茗溪堂	1976 函 署名あり	1500
144	放浪のあしあと	加藤泰安	創文社	S 46 函 署名あり	1000
149	静かなる山	川崎精雄 他	茗溪堂	S 53 カバー	1200
150	続・静かなる山	川崎精雄 他	茗溪堂	S 55 カバー	1200
151	車窓の山旅 中央線から見える山	山村正光	実業之日本社	1985 カバー	800
153	山麓亭百話 上・中・下	横山厚夫	白山書房	1999~2001 カバー	1000
160	本のある山旅	大森久雄	山と渓谷社	1996 カバー 署名あり	800
165	北アルプス 大日岳の事故と事件	斎藤惇生 / 編	ナカニシヤ書店	H 19 カバー	800
179	人はなぜ山に登るのか—別冊太陽	大森久雄・横山厚夫 / 編	平凡社	1998	800
184	山の眼玉	畦地梅太郎	朋文堂	S 32 (函なし)	1000
186	スイス日記	辻村伊助	梓書房	S 5 再刷 函 天金	4000
187	遠き近き	松方三郎	龍星閣	S 26 函	1200
188	いろいろばた	南会津山の会	茗溪堂	1972 函	1200
196	日本アルプスの蝶	田淵行男	学習研究社	S 54 3刷 (裸本)	5000
197	山—世界写真作家シリーズ	田淵行男	平凡社	S 33 カバー	1200
199	南アルプス	白旗史朗 上田哲農 / 文	朝日新聞社	S 45 函	1500
207	山の出べそ	畦地梅太郎	創文社	S 47 3刷 函	1000
226	写真集 南極	エミール・シュルテス /撮影・解説 木下是雄 / 訳	朝日新聞社	S 37 函	800
227	黄色いテント	田淵行男	実業之日本社	1986 3刷 函 帯	1500
230	山と森は私に語った	辻 まこと	白日社	S 55 2刷 函	1000
232	心に山ありて 正・続	今井雄二・今井喜美子	同信社	S 40 函	800
252	上高地	深田久弥・長尾宏也 / 編	修道社	S 33 記名あり	800
276	ヒマラヤの東	中村 保	山と渓谷社	1996 カバー 帯	600
289	登山の今昔	木暮理太郎	山と渓谷社	S 30 カバー 新書判	600
400	ヒマラヤ一大石一馬遺作写真集		山と渓谷社	1995 カバー	600
Y 1	THE ASCENT OF EVEREST	JOHN HUNT	HODDER & STOUGHTON LONDON	1954 4版 カバー	800
Y 2	VIGNETTES OF NEPAL	HARKA GURUNG	Sajha Prakashan Kathmandu	1980	300
Y 3	THE ASCENT OF EVEREST	JOHN HUNT	HODDER & STOUGHTON LONDON	1965 6版 カバー	1000
Y 4	THE CALL OF THE MOUNTAINS	COLIN WYATT with 75PHOTOGRAVURE	THAMES AND HUDSON LONDON	1962 2版 カバー	500
Y 5	Nepal	Toni Hagen	Oxford book & Stationery New Delhi	11961 カバー	800
Y 6	SEVEN SUMMITS	DICK BASS 他	Warner Books New York	1986 カバー	500
Y 7	ALPINE CLUB LIBRARY CATALOGUE 1982	HEINEMANN LONDON	HEINEMANN LONDON	1982	500

- 頒布価格が500円以下の和書(351点)は掲載を省略しています。全目録はホームページ(図書委員会)から検索できます。また、必要な方にはお送りしますので、お申し出ください。
- 問い合わせは三好まさ子まで TEL090-8019-8601 E-mail:344mm@mbe.nifty.com

図書交換会出品目録および購入申込みのご案内

「図書交換会」を、3月7日（土）に開催します。多くの会員の参加をお待ちします。
交換会当日の詳細は19ページの「インフォメーション」に掲載していますが、当日に来場できない方は、下記の要領で購入の申込みを行なってください。

- 郵便（日本山岳会・図書委員会あて）またはメール（344mm@mbn.nifty.com）で、2月15日までにお申込みください。
- 購入希望図書の番号、書名、購入希望者の名前と会員番号を必ずご記入ください。入札本（★印1～6）の場合も、入札価格を明記のうえ、同じ要領でお申込みください。
- 複数の申込みがあった場合は、会場で抽選を行ないます（来場できない方の抽選は、図書委員が代理します）。
- 購入図書の送料は購入者負担とし、交換会終了後に代金と一緒に請求させていただきます。

番号	書名	著者名	発行		価格
★1	わが登高行 上・下	三田幸夫	茗溪堂	1979 二重函 署名あり 100部限定の15 天金	入札(最低価格 15000)
★2	山稜の読書家	島田 翼	茗溪堂	1985 二重函 署名あり 100部限定の69 天金	入札(最低価格 10000)
★3	山・人・本	島田 翼	茗溪堂	1976 二重函 署名あり 100部限 定の71 天金 ペーパーナイフ付	入札(最低価格 10000)
★4	山の憶ひ出 上・下	木暮理太郎	龍星閣	S 13 S 14 初版函	入札(最低価格 10000)
★5	初めての山	本多勝一	二見書房	S 45 函 129部限定 署名あり	入札(最低価格 5000)
★6	雪原の足あと	坂本直行	茗溪堂	S 50 二重函 署名あり 100部 限定の26 天金 水彩画一葉入	入札(最低価格 10000)
11	日本の山—豪華写真集	横有恒 他 /執筆 風見武秀・その他45名/写真	毎日新聞社	S 53 函 ケース	1000
12	山—光と影 現代山岳写真家代表作		山と渓谷社	S 53 函	1000
13	名峰百景—決定版自然の心	今西錦司 他	世界文化社	S 55 函	1000
14	日本の心 アルプス讃歌 現代日本写真全集3	白旗史朗	第一アートセンター	S 56 函	1000
15	名峰日本アルプス	白旗史朗	山と渓谷社	S 57 カバー 帯	1000
16	北アルプス	白旗史朗	山と渓谷社	S 55 函	1000
17	わが南アルプス	白旗史朗	朝日新聞社	1976 函	1000
18	南アルプス	白旗史朗 上田哲農 /文	朝日新聞社	S 45 函	1500
19	尖峰 水壁 登攀	中野 融 /写真 白旗史朗 /文	朝日新聞社	1985 カバー 帯	1000
20	アルプス大縦走	岩橋崇至	山と渓谷社	1984 カバー 帯	800
21	日本アルプス	深田久弥	修道社	S 42 カバー 帯	1000
22	美しき山	新田次郎 /編 日本山岳写真集団 /写真	山と渓谷社	S 52 函	1000
24	山に憑かれて 正・続	白旗史朗	成美堂出版	S 52・S 60 函	1000
45	登山技術 1～3	日本山岳会 /編	白水社	1972～73 函	600
48	富士の信仰	浅間神社 /編	古今書院	S 33 函	2000
50	一日二日山の旅	河田 槟	自彌館書店	T 13 再版	1000
55	原野から見た山	坂本直行	朋文堂	S 32 函	2000
60	山と書物 正・続	小林義正	築地書館	1981 函	3000
62	大興安嶺探検	今西錦司 /編著	講談社	S 50 復刻版 函	1500
63	ボナベ島—生態学的研究	今西錦司 /編著	講談社	S 50 復刻版 函	1500
64	小島鳥水全集 第8巻	小島鳥水	大修館書店	S 55 函 ケース	1000
65	小島鳥水全集 第9巻	小島鳥水	大修館書店	S 56 函 ケース	1000
66	小島鳥水全集 第10巻	小島鳥水	大修館書店	S 55 函 ケース	1000
67	小島鳥水全集 第11巻	小島鳥水	大修館書店	S 57 函 ケース	1000
68	小島鳥水全集 第12巻	小島鳥水	大修館書店	S 62 函 ケース	1000
70	日本山岳文学史	瓜生卓造	東京新聞出版局	S 54 函	800
71	ネパール・ヒマラヤ	W. H. テイルマン /著 深田久弥 /訳	四季書館	1977 再版 函	800
72	写真集 ヒマラヤの高峰—深田久弥 山の文学全集 別巻		朝日新聞社	S 53 カバー	1500
73	ヒマラヤ—第三の極地	ディーレンフルト /著 福田宏年 /訳	白水社	1978 函	800
74	遊牧論 そのほか	今西錦司	秋田屋	S 23	1000
75	草原行	今西錦司	府中書院	S 22	1000

『ヤングハズバンド伝――激動の中央アジアを駆け抜けた探検家』

金子民雄・著

ヤングハズバンド伝
Francis E. Younghusband
活動の中央アジアを駆け抜けた探検家

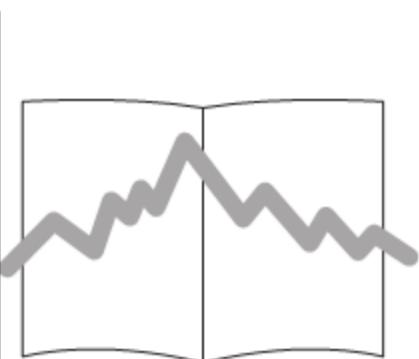
2008年11月 白水社刊 A5判 525頁 定価 7875円

彼の生涯のなかでのハイライトは、ゴビの砂漠を横断し、カラコルム山脈をムスタグ峠で越え、バルトロ氷河に下り立つ中央アジア横断の旅である。

さらに、インドからカラコルム峠を越えて、カラコルム北西部を探検するが、ここでロシア隊のグロンブチエフスキーカー大尉との邂逅は「インド国境地帯で英國とロシアの権益の代表者の初顔合わせ」となる。

翌1890年、再び、27歳の彼はカラコルム峠を越えてカシュガルに行く。そこで英通商代表部を開設するのである。そして、インドへの帰途ワハン谷でコサック隊長イオノフ大佐に出会い、食事に招待されたりする。

悪評を蒙ることになるチベット使節団の団長となつて、チベットとの外交、交易交渉に当たるのは、40歳の時である。その結果、ラサ代、偶然ではなかつた。



図書紹介



への英軍隊の進撃、占拠という最悪の事態をもたらしてしまつた。そして彼の探検家としての人生はこれで終わることになる。

しかし、本文はまだ続く。48歳の時にはベルギーで交通事故に遭い、瀕死の重傷を負う。56歳の時に、王立地理学協会の会長に、翌年に選ばれる。エベレスト登山の交渉や遠征登山については、4章があつれ詳細に記述されている。

晩年の宗教活動や女性問題については、資料を掘りかえしての筆者の力作であろう。中央アジア横断旅行やカラコルム、パミール探検などについては『The heart of Continent』の邦訳『カラコルムを越えて』(白水社、角川文庫)で知ることができるが、それ以外の章に筆者の博覧強記が展開されていて、これらの章に筆者の情熱が最も注がれたのではないかと推測する。

(田村俊介)



悪評を蒙ることになるチベット使節団の団長となつて、チベットとの外交、交易交渉に当たるのは、40歳の時である。その結果、ラサ代、偶然ではなかつた。

著者	書名	ページ・サイズ	出版元	刊行年	寄贈/購入別
雁部貞夫	山のひと山の本――岳人岳書録	286p/20cm	木犀社	2008	著者寄贈
藤本一美	展望の山50選 関東編――絵図で楽しみ山岳パノラマの世界	183p/21cm	東京新聞出版局	2008	出版社寄贈
中根穂高	かんたん! フリークライミング	135p/21cm	東京新聞出版局	2008	出版社寄贈
牛丸工(編)	芥川龍之介の槍ヶ岳登山と河童橋	210p/21cm	上高地登山案内人組合	2008	著者寄贈
会津山岳会(編)	すかり 飯豊連峰特集号――会津山岳会創立40周年記念	286p/26cm	会津山岳会	1998	発行者寄贈
会津山岳会(編)	すかり 南会津特集号――会津山岳会創立50周年記念	292p/26cm	会津山岳会	2008	発行者寄贈
富田幹夫	君に見せばや――特産植物探索記	190p/22cm	ほおずき書籍	2008	著者寄贈
京都府山岳連盟(編著)	京都北山から――自然・文化・人	187p/22cm	ナカニシヤ出版	2008	出版社寄贈
根深誠	一竿有縁の溪	227p/20cm	七つ森書館	2008	著者寄贈
西口正司	白神の山旅――登山道と植物群/世界自然遺産ガイドブック	120p/19cm	西口正司(私家版)	2008	著者寄贈
Mark Watson(ed.)	New Zealand Alpine Journal 2008 (Vol.60)	144p/25cm	New Zealand Alpine Club	2008	発行者寄贈

会 務 報 告

平成20年度第8回(12月度)理事会

日時 平成20年12月10日 18時30分
～20時50分

場所 日本山岳会会議室
【出席者】 鮫坂・神崎各副会長、宮崎・吉永・成川各常務理事、斎藤・藤井・石橋・古野・太田・堀井・相馬・山川・岡部各理事、竹中監事、河野・近藤各常任評議員、神長会報編集委員長

【委任】 宮下会長、深川監事
【欠席】 日下田常任評議員

【審議事項】

1・「山の日」プロジェクト(案)(吉永)

「山の日」制定趣旨についての説明が行なわれた。プロジェクトチームを設置し、取り組み方針などを策定していく。各支部にも「山の日」担当者をおいて推進を図りたいとの提案があつた。(承認)

5・日本勤労者山岳連盟望年会の報告(宮崎)

神崎副会長が出席した(12月5

日)。

6・大台ヶ原における装薬銃等によるニホンジカの捕獲実施について(宮崎)

近畿地方環境事務所から、12月1日～12日の間行なわれるとの連絡があつた。

7・生涯スポーツコンベンション

【報告事項】
1・富国生命からの寄付金受領の件(山川)

山環ネットの活動に対する寄付金として、富国生命から30万円の寄付金があつた(11月10日付)。

2・平成20年度年次晩餐会報告(宮崎)

12月6日、参加会員470名。皇太子殿下の出席もあり、盛会に開催された。

3・公益法人改革説明会報告(吉永)

坂倉登喜子殿(98歳)(宮崎)
12月3日、逝去された。

10・衆議院調査局からいわゆる天下りについての予備的調査(宮崎)
「該当者なし」と回答した。

11・上高地地区CATV施設整備事業の報告とその工事にかかる分担金の負担について(斎藤)

国土地理院から登山道変化情報提供の依頼があつた。今後、報告様式等につき協議をし、協力していくべきたい。

12・講師派遣について(依頼)(宮崎)

熊本支部の研修会(1月17日)

に講師派遣依頼があり、神崎副会長を派遣する。

13・日本山岳会／ニュージーランド山岳会国際交流記念登山(太田)

2月末日から10日間程度の下見(登山、ハイキング各10名程度を予定)をしてから企画の詳細を詰めていきたい。

14・国際山岳建築シンポジウム信州2008(宮崎)

信州大学山岳科学総合研究所から、12月11日～13日の間開催の案内があつた。

8・栃木、茨城、千葉三支部合同懇談会のお知らせ(宮崎)

2月7日～8日開催される。神崎副会長が出席する。

9・訃報 名誉会員No.3041

当会の費用負担でメール配信(パソコン・携帯電話)する。実施期間は12月19日～1月18日の間、実施地域は①剣岳・立山②槍ヶ岳・穂高岳③八ヶ岳の山域で利用

は無料であるが、登録を日本山岳会のホームページ上で行なうこと必要になる。

16・四国分水嶺踏査(宮崎)

関西支部が平成18年5月27日から行なってきた「四国分水嶺踏査」が、11月23日で終了したとの報告があつた。

17・冬山登山の警告「要注意！冬山の気象の急変」(宮崎)

山岳遭難対策中央協議会から案

内があつた。
長)

ルーム日誌 12月

19日	18日	17日	16日	15日	14日	13日	12日	11日	10日	9日	8日	7日	6日	5日	4日	3日	2日	1日
会 緑爽会	定款検討委員会 図書委員会	科学委員会	海外委員会 山岳地理クラブ	三水会 つくも会	山岳研究所運営委員会 アルパインスキークラブ	会報編集委員会 学生部 ブ ハイキングオトビデオクラブ	自然保護委員会 学生部 ブ 山の自然学研究会	アルパインフォトビデオクラブ	理事会 指導委員会	総務委員会 学生部	指導委員会 アルパインスキークラブ	キーラブ アルパインスケッチクラブ	6日	5日	4日	3日	2日	1日

日本山岳会創立百周年を記念して、限定制作の腕時計を販売いたしました。その後、同じ腕時計の購入を希望される方が多くいらっしゃいましたので、最新モデル（2機種）を、再度、販売の斡旋をします。

裏面に日本山岳会のマークを特別に刻印した限定制作です（ただし、今回は会員番号と血液型は入りません）。

購入ご希望の方は、現金書留封筒に代金を入れ、封筒に「腕時計代金」と記入して日本山岳会事務局あてにご送金下さい（会員番号、氏名を明確に記入のこと）。斡旋期間は4月30日まで

会員異動（12月）
物故
坂倉登喜子（3041）08・12・3
高橋 信一（13333）
清水 敏弘（12646）静岡支部
倉持ノリ子（10866）
松原 秀臣（14108）東海支部

24日 自然保護委員会 総務委員会
柴生田美行（11236）08・12・6
佐藤 兼治（5097）08・11・27
退会

25日 アルパインフォトビデオクラブ
ラブ 山遊会
12月来室者493名

中垣 淑子（6812）茨城支部
伊藤周左エ門（9050）越後支部
清水 敏弘（12646）静岡支部
倉持ノリ子（10866）
高橋 信一（13333）
清水 敏弘（12646）静岡支部
倉持ノリ子（10866）
高橋 信一（13333）
松原 秀臣（14108）東海支部

日本山岳会創立百周年記念腕時計の再販斡旋のご案内

総務委員会

です。

問い合わせは、総務委員会の担当、染谷（someya@hosobunka.co.jp）まで。



②PRW-1300TJ-7JF
特別斡旋価格
¥39,000(税込)



①PRW-1000J-1JR
特別斡旋価格
¥23,000(税込)



◆ インフォメーション



◆ 国際交流記念登山・ハイキング
参加者募集 海外委員会

海外委員会の企画で、日本山岳会とニュージーランド山岳会国際

交流記念登山・ハイキングの参加者を募集します。

期間 2月27日～3月8日

内容 登山班10名とハイキング班

20名に分かれて、マウント

クック国立公園のボール・

バスとその周辺のハイキング

代金 登山班38万5000円、ハ

イキング班36万5000円

問合 ヒマラヤ観光開発(株)

TEL 03-3574-9292

アルパインツアーサービス(株)

TEL 03-3503-1911

(株)ウェック・トレック

TEL 03-3437-8848

◆ 山の報告会 海外委員会

海外委員会では、下記の2つのテーマで報告会を開催致します。

① AAC主催クライマースミーテ

*申込み不要
◆ 第26回図書交換会 図書委員会
本年は昨年の倍にあたる450冊の出品がありました。本を眺めるだけでも楽しいものです。気軽に

に参加しませんか (出品目録は145ページに掲載)。
日時 3月7日(土)14時より購入申込み・抽選を開始(13時から本の内覧可能)
場所 山岳会104号室
問合 三好まさ子(TEL 090-8019-8601)
✉ 344mm@mbe.nifty.com

「森づくり」をめぐる
オピニオン欄の投書について
会報「山」2008年12月(763)号のオピニオン欄に掲載された船木威志氏の「高尾の森づくり」に関する記事につき、11月号の同欄で問題を提起した宮崎幸博氏から「わたしは、自身の経験、知見、情報に基づいて森づくり活動の実態(事実)と在り方を書いています。船木氏は指摘した5項目に誠実に答えていないし、事実を曲げたりごまかしたりしている部分がある」、また「『事実に基づいていいない』というタイトルは会員読者に誤解されやすく不適切だ」(以上いざれも要旨)との抗議がありましたが。宮崎氏が提起した問題点を含め、現在、自然保護委員会と高尾の森づくりの会の話し合いがもたれており、今後の理事会の対応と合わせ、推移を見守りたいと思います。(会報編集委員会)

日本山岳会会報 山 764号
2009年(平成21年)1月20日発行
発行所 社団法人日本山岳会
〒102-0081
東京都千代田区四番町5-4
サンピューハイツ四番町
TEL 東京(03)3261-4433
FAX 東京(03)3261-4441
発行者 日本山岳会会长 宮下秀樹
編集人 神長幹雄
Eメール:jac-kaiho@jac.or.jp
印 刷 株式会社 双陽社

◆ 編集後記◆
● 1月号の巻頭は、皇太子さまに富士山初登頂の原稿をお願いしました。これまで晩餐会にご出席された際、「富士山」のテーブルで少し引け目を感じていらっしゃつたとのこと、登られてほんとうによかつたと思います。忙しいご公務のなか、お喜びの気持ちを綴つていただきました。

● 1月号から「山の博物館訪問」という連載を始めました。山の文化の一端を担つていらっしゃる学生の方々に、博物館を紹介していただきます。ご期待ください。

● 昨年末また、森啓会員の遭難という悲しいニュースが入ってきました。青年部委員会と指導委員会で活躍されていました。会員であるお父様のお気持ちを察するに、言葉がありません。(神長幹雄)